

と同様であるが、その中にいくつかの濃く染まる凝縮塊が認められる。前期染色体では異質染色質の部分と真正染色質の部分は明らかに区別される。*Victoria* で見られる。

第3型、前の二つの型とは異なり、中間期核で染色質は糸状に見えず、核全体に拡がる。その中に多数の凝縮塊が認められる。前期染色体では異質染色質の部分と真正染色質の部分は明らかに区別される。ジュンサイ属、ハゴロモモ属、コウホネ属、スイレン属、オニバス属、マツモ属、ハス属。これらのうちハス属では、中間期核にみられる凝縮塊が3, 4個しかなく、染色体も大きく、他の属との違いが認められる。

これら3型のうち、第1型と第2型は中間期核において染色質が糸状に見えて集りをつくることで類似しており、第2型と第3型は中間期核に凝縮塊が見られること、前期染色体に異質染色質と真正染色質の部分が区別されることで類似している。

オニバス属と *Victoria* は外見はよく似ているが染色質凝縮状態が異なっており、このことは、主として種子の表皮細胞や花粉の特徴にもとずいて唱えられた、両属は別な由来をもつという三木、上野らの意見を支持する。

第3型はキンボウゲ科や木本性多心皮類にも見られ、染色体の小形化とむずびついた特殊化と思われ、この型をもつ属は必ずしも系統的に連関づけられるとはかぎらない。

□Berggren, Greta: **Atlas of seeds** Part 3. 259 pp. 1981. Swedish Museum of Natural History. 種子の図鑑である。表記の題目に続いて and small fruits of Northwest-European plant species (Sweden, Norway, Denmark, East Fennoscandia and Iceland) with morphological descriptions. Salicaceae—Cruciferae とあるように北欧地域の植物の種子および小果実を分類順に記相し、写真をつけたものである。科および属の見出しの下に全体の種子の記述と属、種の key があり、種ごとにくわしい形態学的記述が続く。図版は105あり、種子の各方向からの写真、断面、変異幅、図などが並んでいる。ところどころに走査電顕像もある。写真は輪画や稜線に墨が入っていて、時に強調されすぎている感じがうけるものがある。種子断面では Hypocotyl の位置に特異性のあるものがあり、興味をそそられる。わが国の植物については断片的な種子図鑑があるが、こういう工合にまとめたものはない。どうもこのような枚挙記載的なものは分類学者の間でさえソッポを向かれる傾向があって残念だが、研究上も実用上も大変有用なものなので、続刊を期待すると共にわが国でも手をつける人が出ることを希望する。

(金井弘夫)